

【個人】

提出 平成31年3月21日

山 行 報 告 書

山行報告提出者：鈴木

| | | |
|--------------------------|---|--|
| 山 域・山 名： 久 住 山 (1,787m) | | (大分県竹田市) |
| 入山日：平成31年3月14日 (木) 日帰り | | |
| プラン担当者 正： 鈴木 副： | | 山頂風景 |
| 参 加 者 | L：報：記： 鈴木 (単独行) |  |
| | 男 1名、女 名、計 1名 | |
| 天候：晴れ | | |
| 3月14日 (木) | 7：20 牧ノ戸峠—8：30 扇の鼻分岐—9：00 久住分れ—9：30 久住山— 10：10 中岳—11：30 久住分れ—12：20 牧ノ戸峠下山 行動：5h00 | |
| 荒天候時のエスケープルート： その場で引き返す。 | | |
| 装 備 と 食 糧 | 共同装備：共同食：車提供者：なし | |
| | 個人装備：ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、替衣類、水、帽子、グローブ、 スパッツ、ストック、スパイク 個人食：予備食、行動食 | |
| 感 想 | 当初法華院で1泊の予定であったが3/11に行けなかった韓国岳に行くため日帰りに変更した。登山口は標高1,300mと高く、コンクリートの登山道は雪と氷ではなはだ歩きにくい。高度を上げると岩場あり・湖沼ありと変化に富んだ山稜が現れ、疲れを忘れさせる魅力あふれる風景を存分に楽しんだ。中岳の山頂直下は見た目急峻な岩稜帯だが、取りつくと三点支持をするまでもない登山道がありあっさり頂上を極めた。凍結で歩きやすかった行きの登山路も帰りは気温上昇で解けてひどい泥道に変わっており、転んで尻もちをつく愚行だけは避けようと慎重に下山し難を逃れた。 | |